

## 臨床試験概要 【JPLSG-AML-P17】

### 1. 研究代表者(氏名、施設)

湯坐有希、東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科

### 2. 研究事務局(氏名、施設)

青木孝浩、千葉大学医学部附属病院 小児科

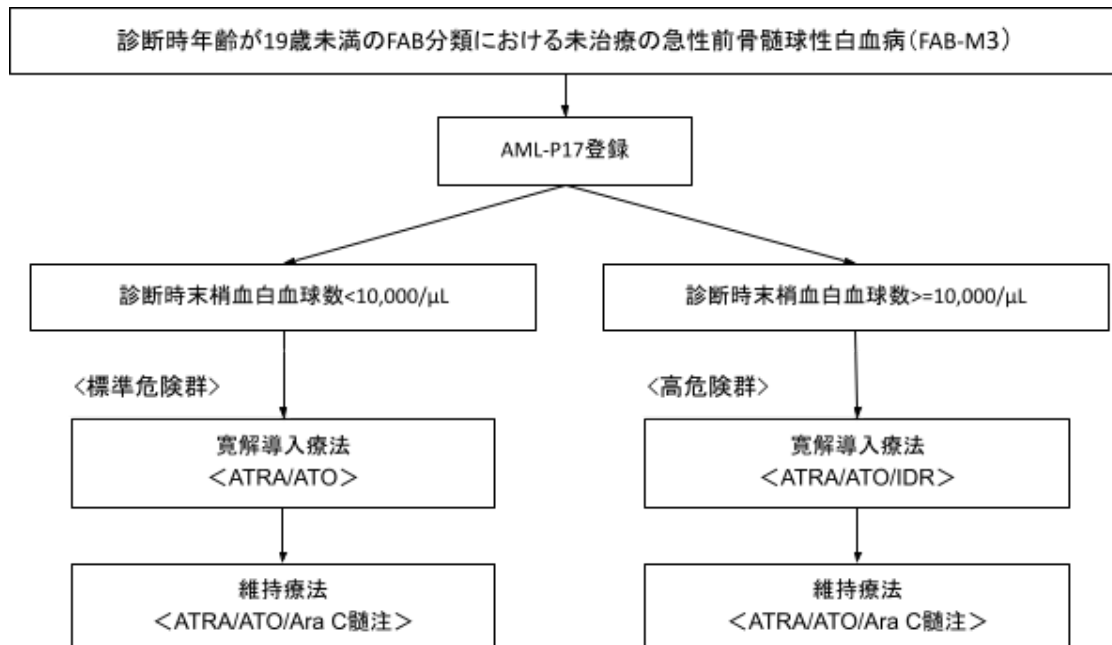
### 3. 目的

成人の新規診断小児急性前骨髄球性白血病（APL）では分化誘導剤である全トランスレチノイン酸（ATRA）と三酸化二ヒ酸（ATO）を基本骨格とした治療により、その治療成績は向上している。そこで本試験では本邦小児 APL に対し、殺細胞性抗がん薬の使用量を極力減量し、ATRA と ATO を基本骨格とした治療の実行可能性とその安全性及び有効性について検証する。

### 4. 対象

19 歳未満の新規診断小児急性前骨髄球性白血病（APL）

### 5. 治療(シエーマ可)



## 6. 予定登録数と研究期間

予定登録数:39 例

予定登録期間:5 年間

追跡予定期間:登録期間終了後 2 年間

総研究予定期間:8 年 (2024 年 03 月-2032 年 02 月 29 日予定)

## 7. 問い合わせ先

研究代表者: 湯坐 有希

地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科 部長

研究事務局: 青木 孝浩

千葉大学医学部附属病院 小児科